



# 寄り添う大切さ再認識

北東北自殺予防  
民間団体交流会 五所川原で討論会

自殺予防の方策を考  
える「北東北自殺予防  
民間団体等活動交流  
会」(主催・NPO法  
人「ほほえみの会」)  
が17日、五所川原市の  
ふるさと交流圏民セン  
ター「オルテンシア」  
で始まった。講演会や  
討論会を通して、参加  
した約140人は、孤  
立する心に寄り添う大

孤立した人に寄り添  
う大切さが強調され  
た討論会

切さを再認識した。  
講演会では、自殺予  
防演劇の創作・演出を  
手掛けている長谷川孝  
治さん(青森県立美術  
館舞台芸術総監督)が  
「資本主義の進展で地  
域社会も家族もバラバ  
ラになってしまった。  
このひび割れた部分  
を、コミュニケーション  
や対話、演劇や文化  
で接着していきたい。  
相手の言うことをよく  
聞くこと、隣人に対し  
て想像力を働かせるこ  
とが大切」と強調した。

18人のパネリストに  
よる討論会では、ほほ  
えみの会理事長の藤林  
百合子さんが、昨年から  
五所川原市で実施し  
ている「傾聴サロン」  
の取り組みを紹介。「サ  
ロンに参加した相談者  
の顔が明るくなった。  
専門知識がなくても、  
サロンを通して自殺防  
止に協力できると分か  
った」と話した。  
NPO法人「青森音  
楽療法研究会」理事長

の佐々木純子さんは、  
相手と呼吸や視線を合  
わせることの効果を強  
調。「食といのちのネッ  
トワーク」代表の山本  
由美子さん(平内町)  
は、頑張りすぎない大  
切さを語った。青森市  
の田澤美和子さんは  
「遺族が、安心して思  
いを語れる場をつくつて  
いきたい」と話した。会  
場からは「自殺対策の  
成果を検証することも  
大切」との意見も出た。  
交流大会は18日午前  
9時から、鶴田町の「つ  
がる富士見荘」で分科  
会を行い、日程を終了  
する。